

太鼓や音楽でつなぐ笑顔の輪 ～人を思いやる心 体も心もたくましく～



出来るかな? でもやってみたら楽しかった!
子どもの声に耳を傾け、音楽を通して
子ども達の好奇心をとことん応援します

社会福祉法人北信福社会

ほくしん保育園 あづま保育園

平成11年当初



20年以上継続している “ほくしん太鼓”



令和3年



平成22年



平成24年から続く あづま保育園 “よさこい”



2年前・・・

「特色ある幼児教育・保育プロジェクト」に参加させて頂き、福島市のHPを見て保育園の魅力を知って頂く良い機会となり、こんな保育園に入所してみたい、就職してみたいという思いにもつながり、市の取り組みに参加させて頂いた事が実りあるものとなりました。

今回も、子どもの声に耳を傾ける姿勢を貫きつつ、地域の方との触れ合いを大切に、新たな挑戦に取り組みたいと思っております。



取り組みのきっかけ・・・

筍の時期に、地域の方が筍を沢山持ってきて下さいました。筍の皮むきを体験している時、4歳男児から「タケノコって、大きくなったらどうなるの？」という質問が出ました。この話を地域の方に話したところ、立派な竹を持ってきて「これ！たたくと良い音するぞ！」とたたいて見せてくれました。その瞬間、子ども達が「やってみたい！！」と目を輝かせて大きな竹に近寄る姿を見て、保育者は竹太鼓を思いつきました。保護者の方に竹太鼓の話をする、「台を作りますよ！！」と申し出を頂き、沢山の方の支えの中、竹太鼓に挑戦することができています。

地域の方とのつながり・・・

このような地域の方との関わりが竹太鼓への発想へと結びつき、多くの方々と一緒に子育てが出来ている事に温かいつながりを感じます。コロナ禍で人と人との交流が希薄になっている中、親に限らず大人の背中を見て育ち、ふれあいの中で安心して過ごせるようになるのだと思っています。園としても地域の方とのふれあいや関わりを大切に、沢山の感動体験を通し、全ての始まりは子ども達の気づきや言葉から・・・を胸に刻み、将来福島市の地域を担う子ども達の社会性を育てていきたいと思っております。

心・技・体

①地域の方々との触れ合いや心を育てる

人と人との交流がどんどん削られていく中、ほくしん太鼓を主体に、子ども達と一緒に地域の方々との触れ合いや、和太鼓を通して“挨拶・姿勢・リズム感”の基本的習慣の確立、基礎作りとして“体力・集中力・忍耐力・協調性・感謝の気持ち・心”を養い、心技体を目指していきたいと思います。

②竹太鼓への挑戦(姉妹園交流)

毎年年長児に憧れている年少クラスにも、太鼓の経験をさせてあげたいという思いの中“竹太鼓”(廃棄する資源を保育資源に活かし、これもSDGsにつながる?!)を思いつき、地域の方に相談させて頂くと、快く引き受けて下さり、竹太鼓を体験できる運びとなりました。

竹太鼓の話を、開所当初からよさこいに力を入れている、姉妹園のあづま保育園にしたところ、竹太鼓を取り入れて一緒に交流し、子ども達との新たな挑戦の輪を広げていくこととなりました。

よさこいの曲に「うつくしまたからもの」を選曲し、将来子ども達が大人になった時、福島の良さを次の世代に伝えていけることを夢に取り組んでいきたいと思います。

これからの時代、「自分さえ良ければ」は通用しない時代に突入します。強い心、強い体、そして何より思いやりの心を伝え続けることを大切に、当法人理念のキラキラ輝く笑顔と共に、生きる力と豊かな心を育みます。



保育の原点は子ども達の気づき、不思議、なぜ?どうして?から始まる
幼い頃に培った感性が五感を育て、たくましく環境に適応する能力、
生きる力に結びついていく。SDGs (持続可能な開発目標) を日々の目標にし
大切に心を育て、保育に広がりを持ち無限の可能性を引き出していく。

《ふれあい遊び》 ～0歳児～

赤ちゃんの脳は、3歳までに急速に成長すると言われています。生後、潜在能力をフルに引き出してあげることの最適な方法のひとつに、音楽を聴くことがあげられます。

◎リズム遊び・手遊びを楽しもう

0歳児はリズム遊びや手遊びの中で、心地よさを感じる経験を積み重ねてイキイキとした表情や動作が生まれ、喜びを表現する。表情を大切にしながらゆったりとしたテンポで、優しい語りかけと共に音やリズムに対する興味につなげ、スキンシップを持ち、安心感から心を満たし、楽しい気分になる。

◎心と体の機能を育む

手作りのガラガラでリズム遊びを楽しんだり、牛乳パックで作った太鼓を叩いたり、保育士と一緒に心と体の機能を育みながら、コミュニケーションを楽しむ。

◎五感を刺激する

音を耳で聞くだけでなく、リズムに合わせて歩く。保育士が体に触れてマッサージしてみたりと、体のさまざまな部分の感覚を刺激することで、五感を育てていく。

⇒胎内で聞いた母親のテンポ（1分間に60～80位）が、安らぎを与え、リラックスできる。



《ふれあい遊びから表現遊びへ》 ～1歳以上児～

年齢ごとに段階を追い、子ども達の興味・関心を大切にしながら、子ども達がやってみたいことを取り入れていきます。

◎楽器に親しみ、音を出すことを楽しむ

大人の動きを真似しようとし始めます。楽器に親しんだり身近な音を使ったり、リズム遊びを楽しみます。いろいろな音やリズムに触れることで、子ども達は豊かな感性を身につけていきます。

◎昨日できなかったことが今日できるように！

保育士と子ども達ができた喜びを共感できる、楽しいリズム遊び。



歌を歌ったり踊ったりすることは、楽しさだけでなく、経験を広げることに効果的な方法



《太鼓・よさこいへの取り組み》

子ども達一人ひとりが、自分の考えをもって、
いろいろなことにチャレンジしてほしい！！

◎音楽に合わせてながら、体を動かして遊ぶ

園の中で様々な刺激を受けて、興味関心が広がっていく。「すごい！」「楽しい！」などの感動体験が「やってみたい！」という気持ちや好奇心が育つ。



2歳児の子ども、お兄さんお姉さん達の活動している姿を見たり聞いたりして体全体で感じ取り、「やってみたい！！」という意欲を持ち、体験していきます。



《運動遊びとのつながり》

体幹・運動能力を身につけ、バランス感覚や柔軟性・瞬発力などの身体感覚を高める

◎集中力を養う

◎成功体験を積むことで「やればできる」という自己肯定感を向上させる

◎運動遊びのルールを通じて、ルールを守る大切さを知り、友達とのコミュニケーションの取り方やチームワークなどを学ぶ



《保育園交流》

昨年度はコロナ禍で、老人ホーム交流や地域の文化祭りが中止となってしまった為、状況に合わせて今、子ども達にとってできる事は何か！！を考え、姉妹園と交流をし、お互いに頑張っている事を発表しました。



- ◎子ども同士のかかわりは、豊かな心や人とつながる力を育む
- ◎子ども達が目標に向かって頑張る力や協同意識を育む
- ◎子ども達との交流を楽しみ、友達の輪を広げたり深めたりする
- ◎子ども達が自分の力を発揮し、自信や意欲が出てくる

近隣の保育園の方に声をかけ、わくわくひろばを利用し、福島にゆかりのある曲をベースに竹太鼓を広げていきたい！！

※竹であればSDGsにもつながり、コスト面でも取りかかれる為、保育園同士のつながりの輪を広げていけるのではないかと願う。



《地域交流》 ～新たな挑戦 ICT導入～

- ◎コロナ禍でも高齢者の方と園児を繋ぐICT導入
- ・太鼓の演奏をDVDに撮影し、見てもらう
- ・リモート（ZOOM）を利用した演奏
- ・立地条件を生かして老人ホームの窓から太鼓を見て頂く



【楽器や道具に触れてみよう】

自由に音を鳴らしたり、道具を使って振りを真似しながら、楽器に親しんでいきます。



パーラंकー



扇子



チャツパ



鳴子



竹太鼓



抱え太鼓



和傘

【引き継ぎ】

前年度の年長組さんから引き継いだ練習の成果を発表し、自身につなげていきます。
目標をもって励むことや発表することで、達成感を得ることができます。



表現するおもしろさを学ぶ

- ◎友達と一緒に目的に向かって意欲的に取り組んだり、頑張る気持ちや挑戦してみたいという気持ちを培っていく。
- ◎歌やリズムにのって、手足や体を動かす喜びを知る。
- ◎全身を使う遊びを楽しみながら、表現力を豊かにする。
- ◎自分のイメージを、音や動きなどで表現したり、演じたりする楽しさを味わう。
- ◎友達と一緒に表現することの楽しさに気づき、共通の目的に向けて協力する。



リズムの導入

- ◎音楽を聴きながら音の高低やスピードの変化に触れる。
- ◎曲の雰囲気を感じながら体を動かすことで、音楽を聴き分ける力が養われ、音感やリズム感が生まれるきっかけになる。



- ・表現力が身につく
- ・協調性を養う
- ・集中力が身につく
- ・心身の発達を促す





- ◎子ども同士が応援し、励まし合い、協力し合い考えていく。
- ◎一人ひとりの頑張りだけでなく、チームとして同じ目標に向かって頑張っていく過程や、達成することの喜びを大切にしていける。
- ◎子どもたち自身がどうしたいかを、子ども達が自分達力でじっくり話し合い進めていく。
- ◎子ども達の主体性を大切にするために、声をかけすぎないよう意識して、子ども達自らの発信力を見守っていく。



音楽は言語能力や空間認知能力
育成の大事な要素

音楽は世界共通
言葉が通じなくても、音楽で結んでいく
世界の輪・架け橋となっていく

あらゆるジャンルを耳にし、
想像力や創造性が高まり、記憶力の
向上、集中力も養われる

言葉で意思疎通ができなく
ても、音楽によってコミュ
ニケーションを取れること

友達の奏でる音に耳を傾け、グループ
の調和を取り音を出すことは、
人格形成や社会への対応力を養う

将来への生きる力を
身につけていく

音楽との出会いが
子ども達を輝かせる

楽しさ・表現力・協調性・想像力・
感受性など、様々な発達につながる



園での経験が子ども達にとって、ちいさなきっかけの種となり、将来自分の夢につながり、やがて実を結び、花が開くように太くて強い幹を育てたい。私たち職員は、今子ども達にとってできることは何かを一番に考えています。今この輝く瞬間を大切に、一人ひとりに寄り添い、地域の子ども達との輪を広げ、子ども達の成長を支えていきます。